

2008 年 6 月 22 日

各位

世界学生環境サミット in 京都 実行委員会  
広報部 プレス担当 安井 文拓**世界各国の学生が京都に集い、持続可能な発展にむけて提言  
「世界学生環境サミット in 京都」を開催いたしました。**

世界学生環境サミット in 京都実行委員会は 2008 年 6 月 20 日から 22 日にかけて世界学生環境サミット in 京都を開催致しました。世界 11 カ国の学生(6 月 17 日現在)が京都に集まり、3つの分科会、全体会を通して“持続可能な発展に向けて”熱い議論をおこないました。この成果を『学生意見書～未来へ向けての可能性～』にまとめ、最終日である 22 日に環境省地球環境局長南川様に手渡しました。

## ■リリース内容

6 月 20 日から 22 日まで、世界学生環境サミット in 京都を開催いたしました。その熱い議論を『学生意見書～未来へ向けての可能性～』にまとめ、環境省地球環境局長へ手渡したことをお伝えさせていただきます。

- サミット開催スケジュールを配布させていただきます→[別紙 1](#)
- サミットに関する参加人数、大学数等のデータ→[別紙 2](#)
- 本日出来上がりました学生意見書要旨を配布させていただきます→[別紙 3](#)

世界学生環境サミットでは、環境問題、特に地球温暖化防止に向けた議論のみならず、学生が次世代を担う存在として何かできるか、また次世代はどのような世界であってほしいかを話し合いました。現在研究している地球温暖化に向けての技術を発表したり、世界各国の参加学生が各々の国における行動案を考えたりなどして、実現へ向けての決意を共有・表明しました。

このサミットで作られるネットワークを元にし、学生意見書にも記載されたように、全ての市民がより高いクオリティ・オブ・ライフを目指し、継続的に協働していくこととなるでしょう。

社会に出ていない学生はあらゆる面で未熟な存在です。社会的に通用しないことも出てくるかもしれません。しかし、未熟であるからこそ柔軟な発想素直で熱いエネルギーを持ち合わせており、そのパワーに驚かされることも少なくありません。このサミットでも予期しない出来事、予期しない議論が実際に起こりました。当初思い描いていた学生意見書とも、よい意味で全く異なったものに変っていききました。しかし、私たちはそれこそがまさにこのサミットの醍醐味であり、学生が集まって議論することの意義だと考えています。

また実行委員会では学生スタッフ 103 名が昼夜を問わず、今まで行ってきた海外学生との議論のやり取りのまとめから、滞在中の食事や宿泊、交通の手配、そして会期中のプログラム運営に向け細かい最終調整に追われていました。私たち学生にとってこのようなサミットの運営というものとは当然ながら今まで経験したことはなく、日々とにかくサミットの成功と意見書完成の為にがむしゃらに頑張ってきました。

今回、このようにサミットを成功裡に終え、意見書を無事採択することができ、海外参加学生・スタッフ一同ともども大変喜ばしく思っております。私たち学生をサポートしてくださった全ての方々から心からの感謝の念を述べたいと思います。

## 世界学生環境サミット in 京都

### ■世界学生環境サミット in 京都、及び各分科会、全体会の説明(6月4日発表済み)

名称:世界学生環境サミット in 京都

開催日:2008年6月20日(金)~22日(日)

会場:同志社大学(寒梅館ハーディーホール、今出川キャンパス、新町キャンパス、京田辺キャンパス)

主催:世界学生環境サミット in 京都 実行委員会

#### ・第一分科会 地球温暖化防止に向けた技術分科会

地球温暖化防止に向けた新技術の研究成果もしくは研究構想を各国の学生が発表する場です。海外学生 17名と同志社大学から日本代表学生2名が参加し、ケンブリッジ大学(イギリス)の学生が議長を務めました。

#### ・第二分科会 環境意識・ネットワーク創造分科会

世界の学生が持続可能な発展を実現するための行動を起こす際に、どのような行動が可能であるかを話し合う場です。海外学生24名と同志社大学、京都大学から日本代表学生として2名が参加し、ヴィクトリア大学(カナダ)の学生が議長を務めました。

#### ・第三分科会 国際交流分科会

世界中から京都府下の大学に留学している学生が、広く環境問題や今回のサミットの意義について意見交換をしながら国際交流を行なう場です。京都に留学している海外学生20名と東京大学の学生2名が参加し、議長は同志社大学の学生が務めました。

#### ・全体会(『学生意見書』採択にむけて)について

上記の各分科会での議論を基に全参加学生が『学生意見書』を作成しました。『学生意見書』とは、どのような世界が理想であるかを、未来を担う学生の視点で具体的に考え、その実現に向かってどのような行動を行っていくのか、もしくはいけるのかを記したものです。今回はホスト国である日本の学生が議長を務めました。すべての学生の多種多様な価値観を受け入れ、それを合意のもとでひとつの意見書にまとめるというこの全体会はサミット会期における最大の見どころでした。

#### ・招致国および大学候補

招致国:計11カ国(日本を含める) / 招致大学、学生数:14大学、41名(日本を含めない)

**アメリカ:**スタンフォード大学(Stanford Univ.)、オペリン大学(Oberlin Univ.)/**ドイツ:**チュービンゲン大学(Tubingen Univ.)/**イギリス:**ケンブリッジ大学(Cambridge Univ.)/**中国:**復旦大学(Fudan Univ.)/**韓国:**延世大学(Yonsei Univ.)/**インド:**ペリヤール大学(Peryar Univ.)/**イタリア:**フィレンツェ大学(Florence Univ.)/**カナダ:**ヴィクトリア大学(Victoria Univ.)、ウイニペグ大学(Winnipeg Univ.)/**ブリティッシュコロンビア工科大学:**British Columbia Technology Institute/**ロシア:**サンクトペテルブルク大学(Saint Petersburg Univ.)、州立ノヴゴロド大学(Novgorod Univ.)/**フランス:**サヴォア大学(Savoie Univ.)

以上

#### ■関連URL :

<http://st-summit.doshisha.ac.jp/kyoto/>

#### ■本件に関する問い合わせ先:

世界学生環境サミット in 京都 実行委員会事務局 同志社大学京田辺校地 ローム記念館2階 RM221

TEL:0774-65-7851 FAX:0774-65-7853 / MAIL:summitky@mail.doshisha.ac.jp